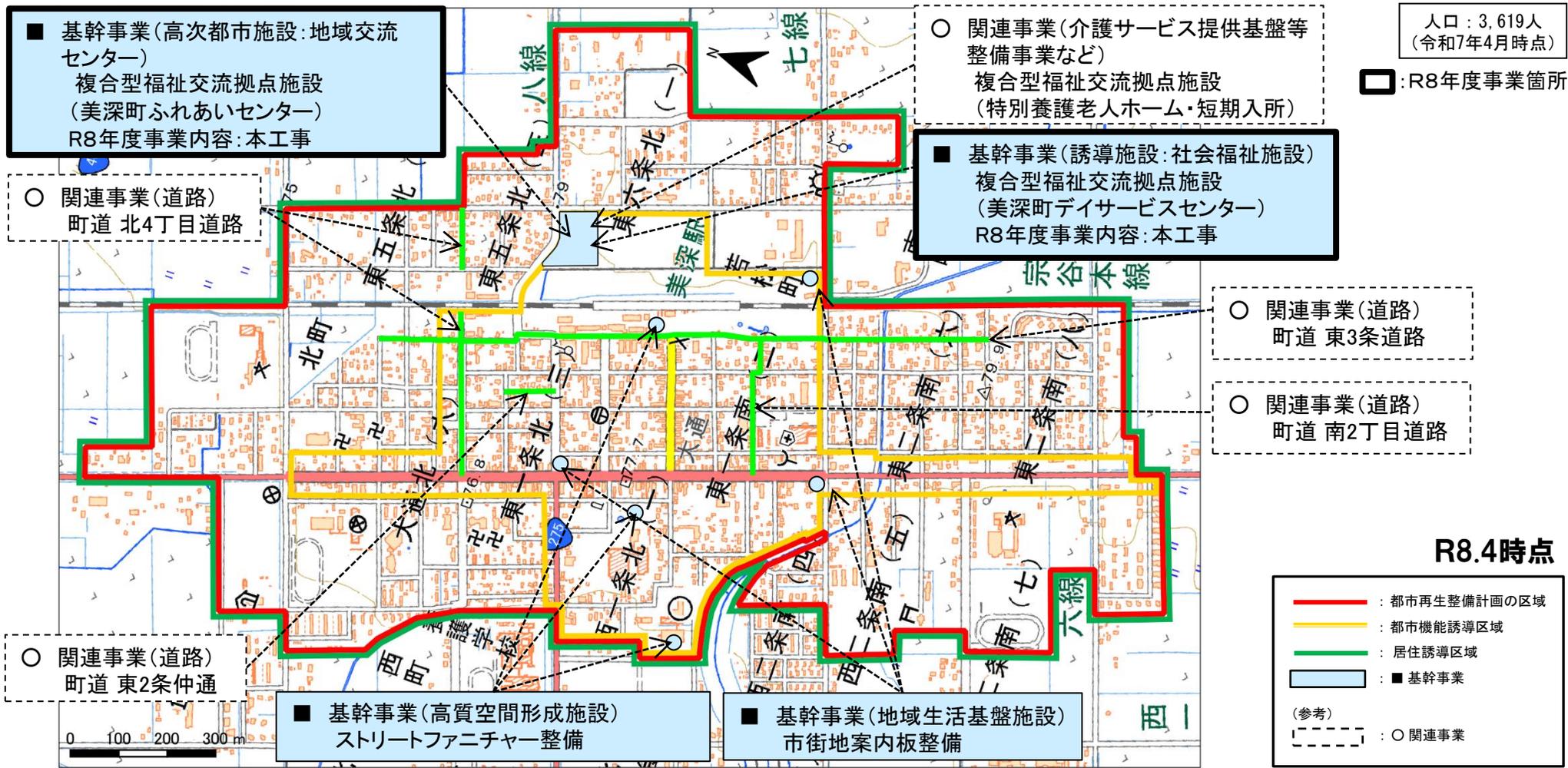


中心市街地地区都市構造再編集中支援事業(北海道美深町)

- ◆事業概要: 人口の減少が続く中においても、長期にわたって健やかに安心して暮らせるまちを実現するために、特に高齢化に対応した都市機能の整備を進めるため、浸水想定地域にある高齢者施設の移転改築、それに合わせて広く町民とふれあえる複合施設の整備、災害時においても高齢者や障がい者等へ安全・安心を与えることができる避難環境の整備を行う。
- ◆事業主体: 美深町 ◆面積: 174.1ha ◆交付期間: 令和8年度～令和10年度 ◆立地適正化計画公表時期: 令和8年3月予定
- ◆全体事業費: 2,919.1百万円 ◆交付対象事業費: 338.8百万円(国費限度額: 169.4百万円) ◆国費率: 50.0%(都市機能誘導区域)



中心市街地地区都市再生整備計画事業

(都市構造再編集中支援事業)

1. 概要

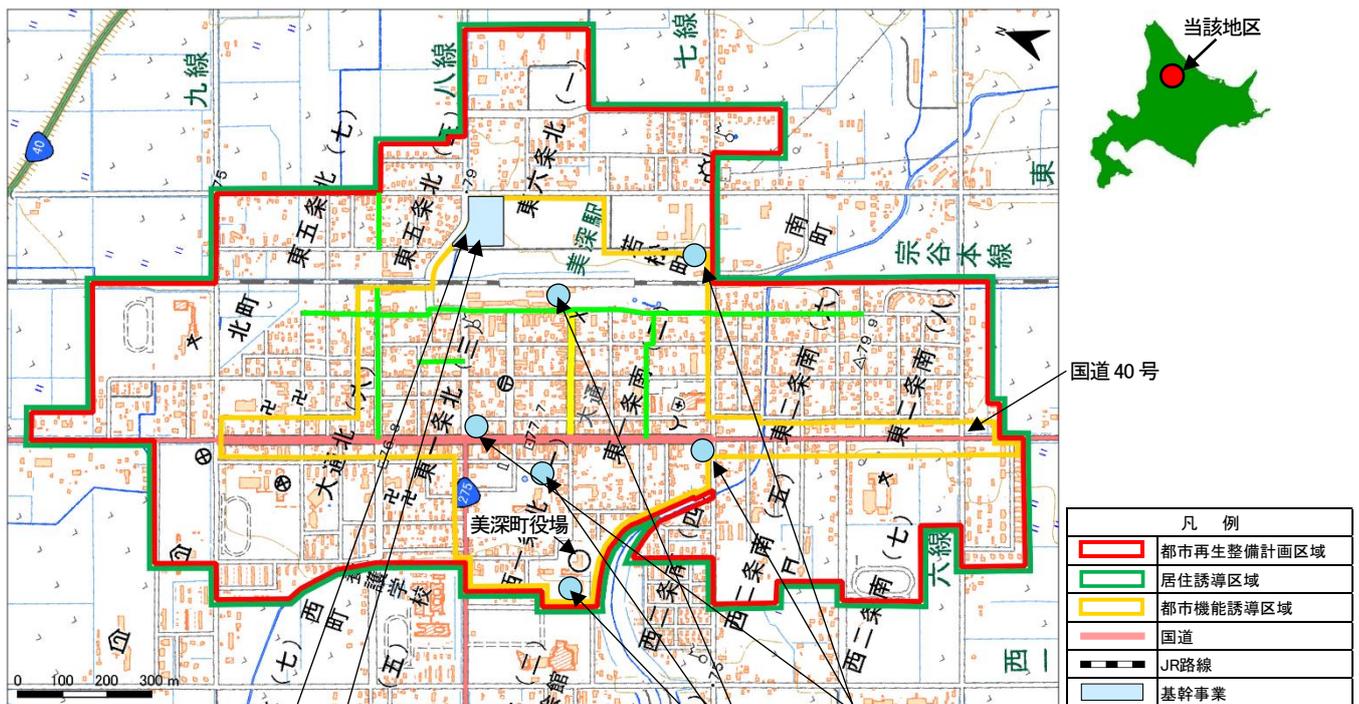
本地区は国道40号線、さらには平行して美深駅を中心にJRが通り、病院や銀行、役場が立地するなど町の中心地区である。少子高齢化、若者の町外流出など、多くの課題を抱えているが、まちの活性化と合わせて、高齢者が安心して暮らすことのできる地域の実現が求められている。

本事業では、市街地の賑わいを創出するため、多世代が触れ合える場所の構築、さらには浸水想定地域にある高齢者福祉施設の移転により安心安全に暮らせる場所の確保を目指す。

令和8年度は、高次都市施設（美深町ふれあいセンター・仮）、誘導施設（美深町デイサービスセンター）、これらを含む複合施設の建設を行う。

2. 計画内容

- 所在地：北海道美深町ほっかいどうびふかちょう
- 事業主体：美深町
- 面積：174.1ha
- 交付期間：令和8年度～令和10年度
- 全体事業費：582.2百万円
- 交付対象事業費：338.8百万円（国費：169.4百万円）
- 事業内容：複合型福祉交流拠点施設、休憩施設整備、案内板整備



◆基幹事業（誘導施設）
複合型福祉交流拠点施設
（美深町デイサービスセンター）
令和8年度：本工事

◆基幹事業（高次都市施設）
複合型福祉交流拠点施設
（美深町ふれあいセンター）
令和8年度：本工事

◆基幹事業（地域生活基盤施設）
市街地案内板整備（R9年度）

◆基幹事業（高質空間形成施設）
ストリートファニチャー整備（R10年度）

都市再生整備計画

ちゅうしんしがいち
中心市街地地区

ほっかいどう びふかちょう
北海道 美深町

令和8年3月

事業名	確認
都市構造再編集支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォーカーブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	北海道	市町村名	美深町	地区名	中心市街地地区	面積	174.1 ha
計画期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度	交付期間	令和 8 年度 ~ 令和 10 年度				

目標
 大目標:高齢化に対応した都市機能の整備により、健やかに安心して暮らせるまちの実現
 目標1:高齢者への対応をはじめ他の町民がふれあえる機能が集約し、雇用の維持につながる複合施設の創出
 目標2:災害時においても高齢者や障がい者等へ安全・安心を与えることができる避難環境の創出

目標設定の根拠
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)
 平成9年、戦後初めて起きた都市銀行(拓銀)の破綻により、メインバンクとしていた多くの道内企業が連鎖破綻に追い込まれ、美深町の代表的な企業であった旧天塩川木材工業株もその影響を受けて雇用の場が失われてきた。そのため、基幹産業の農林業の基盤整備や新規就農支援、都市基盤や美深町文化会館などの教育環境整備、さらに旧国鉄美幸線の跡地を活用したトロッコ王国や道の駅に隣接する温泉・キャンプ場の”びふかアイランド”など観光産業の振興策などを積極的に進めてきたが、少子化や若者の町外流出もあって高齢化が進行し、地域全体の活力低下が大きな課題となっている。また、人口減少に伴う空家・空地の増加に加え、平成25年に市街地を縦断する国道40号のバイパス道路(名寄美深道路)の開通により中心市街地の交通量が減少したことで、都市としての賑わい低下が見られている。このため、第6次総合計画では「地場産業の新たな飛躍へ挑戦するまち」を目標とした産業の再構築や「健やかに安心して暮らせるまち」を目標とした高齢者支援の充実を唱えているほか、都市計画マスタープランでは基本方針で「生産性のある土地空間の創出」「効率的な都市施設の創出」「市街地内に潤いと安らぎのある、ゆとりある住環境の創出」を図るとしていることから、安全・安心かつ効率的に暮らせるまちを創出するため、特別養護老人ホームについて、防災の観点(現所在地が浸水想定区域)から、JR美深駅に近接する用地への移転・建替を図る。さらに、移転に合わせて、市街地の賑わいを創出するためにカフェスペース、イベント広場など施設の複合により、来訪者や周辺住民に開かれた施設整備を行い、JR美深駅に近接する利用度の高い敷地に都市機能の向上を図る。一方、市街地外縁部の住宅地は住民の高齢化が顕著で、主な移動手段が自家用車であることから、将来的な免許返納等により移動手段が失われることが想定されるため、買物や通院、行政施設等の公共・公益施設との生活動線を確保する公共交通の維持・確保を図ることが必要である。

まちづくりの経緯及び現況
 ・美深町は、明治32年に富山県出身の平喜三郎が入植した時を開基としている。明治～大正時代は過酷な気候ながら、水田、畑作、酪農などによる農業が町の発展を支えてきた。昭和に入ると、林業が盛んになり、昭和19年に天塩川木材工業株式会社が創立され、道北の代表的な製材企業として町の発展に大きく寄与した。しかし昭和35～36年以後から外材輸入や資源の枯渇に加え、平成9年の拓銀破綻の影響を受け自己破産している。この間、行政人口も昭和35年に14,000人を超えていたが、令和2年には4,145人となり、人口減少に歯止めが掛かっていない状況である。
 ・都市計画を導入している美深市街地は、駅東地区の木材工場を中心とした土地利用や、市街地の主要幹線となる国道40号、275号と主要道道美深雄武線、一般道道班溪美深停車場線を骨格とした道路事業や街路事業により道路整備を進めているほか、2箇所の近隣公園、美深川を利用した道路空間、並びに公共下水道などの都市基盤施設を整備している。また、令和4年には地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素の排出ゼロを目指すゼロカーボンシティの宣言を行っている。

課題
 住民が安心して暮らすための生活基盤の整備や地域の特性を活かした産業振興など、まちの活性化を目指して各種施策に取り組んできたが、若者を中心とした人口の流出と地域社会や産業を支える担い手の不足、高齢化の進行など、地域全体の活力低下が大きな課題となっている。

将来ビジョン(中長期)
 ①第6次美深町総合計画(令和3年度～令和12年度)
 第6次美深町総合計画では、これまで育まれてきた地域特性である「水と緑の美しい自然環境」、「活力ある地域産業の持続と発展」、「子育て支援の充実と特色ある教育」、「安心して暮らせる充実した福祉」、「まちへの愛着と地域活動」を最大限に活かしてまちづくりを進め、まちの将来像を「未来へ続く 笑顔あふれるまち 美深」と定めている。
 ②第2期美深町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和3年度～令和7年度)
 施策の基本的な方向性と主な事業として、「基本目標1 まちの特性をいかした産業を振興し、働く場をつくる」、「基本目標2 美しい自然と豊かな地域資源をいかし、新しい人の流れをつくる」、「基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「基本目標4 安心して暮らせる魅力的な地域をつくる」を定め、基本目標4の「道路・交通網等の整備」において、住民生活に必要な移動手段である公共交通機関について、ニーズの把握による利便性の向上に努め、必要な路線の確保を目指す、としている。
 ③都市計画マスタープラン(平成27年度～令和17年度)
 美深町都市計画マスタープランでは「シンカ(深化・進化)する 美しいまち・美深」をまちづくりの基本理念に、将来都市像を「水と緑と活気に包まれ 暮らしやすさが実感できる都市(まち)」とし、「①生産性のある土地空間の創出を図る」、「②ゆとりと広がりのある住空間の創出を図る」、「③効率的な都市施設の創出を図る」、「④美深町らしさの創出を図る」を基本方針として定めており、「②ゆとりと広がりのある住空間の創出を図る」では「公園緑地等の適切な維持管理と再細整備」、「③効率的な都市施設の創出を図る」では「公共施設の効率的な配置と整備」の方針が示されている。

都市構造再編集集中支援事業の計画
 都市機能配置の考え方
 ・都市機能増進施設は、居住者の共同の福祉や利便性の向上が図られる行政、教育、文化、医療、福祉、商業などの施設で、本町では概ね市街地に立地している。これらは町民の生活利便性や公共・公益サービス機能を確保するために基本的に維持し続けるべき施設であることから、美深町立地適正化計画において都市機能増進施設を誘導施設として設定している。
 ・市街地中央部には役場、消防、医療・福祉施設、商業施設、金融施設、福祉・子育て施設、文化・体育施設などが、市街地南部には中学校、商業施設、体育施設、福祉施設が、市街地北部には小学校、警察、体育施設、福祉施設が立地しており、基本的にこれらの土地利用を維持するが、福祉施設(特別養護老人ホーム、デイサービスセンター)は、浸水想定区域内に立地していることから、利便性と防災性を考慮し市街地中央部への移転を目指している。
 ・中心市街地は、公共交通の結節機能、商店・店舗や企業の支店等を中心とした経済機能、前述の公共公益機能、観光交流機能、教育文化機能等を有しており、基本的にこれらの土地利用を維持するが、人口減少に伴う空洞化が進んでいることから、空地・空家の活用を図る。
 ・市街地外縁部は、高齢化の傾向が高い地域であるため、住み続けるために必要な生活サービス機能や地域コミュニティ機能の維持を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等
 JR美深駅に近接する利便性の高い未利用地について、「高齢者保健福祉等計画」で位置付けられている特別養護老人ホームの移転に加え、「将来のまちづくりに向けた町民アンケート調査(R6)」において要望が多かった機能の集約化を勘案し、高齢者と地域の人達のふれあいが可能な空間として、複合型福祉施設(特別養護老人ホーム、カフェ、共同洗濯所、イベント広場)を配置する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
美深町ふれあいセンター利用者数	人	高次都市施設として整備する美深町ふれあいセンターの年間利用者数	高齢者に対応するとともに、他の町民が利用可能な複合施設の建設により、地域の交流が促進される	913	R6年度	3,356	R10年度
美深町デイサービスセンター利用者	人	誘導施設として整備する美深町デイサービスセンターの年間利用者数	複合施設を構成する特別養護老人ホームやふれあいセンターの建設により、高齢者等が愛着と誇りを持って暮らしていける	2,911	R6年度	2,911	R10年度
災害時に自分の身を自分で守ることができる人の数	人	災害時に自分が避難する避難所の把握、自宅での備えを持つ人の割合	今事業で実施する避難環境の充実に合わせて、災害に強いまちづくりを目指すことをあらためて町民に周知し、自分の命は自分で守るという意識を持つ町民の割合を増やす。	57.7	R6年度	80.0	R10年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【地域に開かれた効率的な福祉系複合施設の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉施設の移転新築に合わせ、あらゆる町民の利用が可能な複合施設の整備を図る。 ・高齢者や障がい者等へ安全・安心を与えることができる避難場所の整備を図る。 	<p>【基幹事業】(高次都市施設 地域交流センター)複合型福祉交流拠点施設整備事業(美深町ふれあいセンター)</p> <p>【基幹事業】(誘導施設 社会福祉施設)複合型福祉交流拠点施設整備事業(美深町デイサービスセンター)</p> <p>【関連事業】(介護サービス提供基盤等)複合型福祉交流拠点施設整備事業(美深町特別養護老人ホーム・短期入所)</p>
<p>【中心市街地の誘導施設等への快適でスムーズな連絡動線の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘導を図るべき中心市街地において、高齢者のみならずあらゆる町民が利用しやすい道路や市街地案内板、休憩施設の整備を図る。 	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設)市街地案内板整備</p> <p>【基幹事業】(高質空間形成施設 緑化施設等のストリートファニチャー)ストリートファニチャー整備</p> <p>【関連事業】(道路)町道 南2丁目道路</p> <p>【関連事業】(道路)町道 東2条仲通</p> <p>【関連事業】(道路)町道 東3条道路</p> <p>【関連事業】(道路)町道 北4丁目道路</p>

その他
<p>【立地適正化計画等との関連について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画は、現在策定中の美深町立地適正化計画を見据えたものとする。 <p>【交付期間中の計画の管理、事後評価について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報などで町民に公表していく。

中心市街地地区(北海道美深町) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標:高齢化に対応した都市機能の整備により、健やかに安心して暮らせるまちの実現 目標1:高齢者への対応をはじめ他の町民がふれあえる機能が集約し、雇用の維持につながる複合施設の創出 目標2:災害時においても高齢者や障がい者等へ安全・安心を与えることができる避難環境の創出	代表的な指標	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度
			ふれあいセンター利用者数	人	0	R6年度	→	3,356	R10年度
			デイサービスセンター利用者数	人	2,911	R6年度	→	2,911	R10年度
			災害時に自分の身を自分で守ることができる人の数(割合)	%	57.7	R6年度	→	80.0	R10年度

